

福島のごもたちとの三日間 2011.8.22〜24 光円寺山の家

本山と山陽教区によるごももの集いを軸に、なんとか福島のごもたちを受け入れられないかとのNさんの尽力で、福島キッズとつながりました。間の二泊三日十人の四〜六年のごもたち

ち女の子8人男の子2人を
神河の山の家で預かりました
みんな街の子で、昔ながらの
生活は初めてのよう。新生活
で、一緒にご飯やお風呂を焚
きました。トイレが怖かったり、



五右衛門風呂に蛾が入って来て悲鳴が聞こえたり、「人生の貴重な経験をしました」と感想をくれた子もいました。本当に元気で、人懐っこくて、かわいい子たちでした。低気圧接近でせつかくメインに考えていた川遊びは無理かなと思っていたら、二日目朝から晴れてくれて、越知川へ行くことが出来ました。思いつき川で遊べてよかったです！三日目は

姫路へ送る前に映画「ノルウエーの森」で有名になった砥峰高原へ行って、お弁当を食べ、散歩し終わったら、ものすごい雷が鳴って雨がザーッと降ってきました。待っていてくれたみたいで思わず手を合わせました。あと姫路で二泊京都で始めと終わり二泊ずつ、移動が多くてごもたち大変でした。ここへ来る前はホームステアへ行つたとも聞き、大変さを垣間見ました。親御さんの気持を思うとなにかしいではいられません。目の前のこの大事なごもたちが放射線に曝される生活をしていることが受け入れがたいです。いろいろな形で支援を続

お寺に泊るう有志の会のみなさん、支えん者のみなさん、こんなにくくさんの思い出をありがとうございます。とてもうれしかったです。また京都へ行きたいです。福島では、マスク、ぼうし、うでカバーをつけての生活ですが、つくみやう鳥の上うに負けないでがんばっていきます。

郡山市立桑野小学校 四年 吉田 凜

そして、京都、兵庫で、出合、主大人に福島今の生活を話したら、今後の私たち大人の宿題にすると言ってくれました。私は、その言葉を聞いて、大人の人のありがたみを感じることができました。また、命の大切さや大地の大切さなども勉強できた九日聞でした。これからも、おまに泊まっ、た時のお友達や、お世話してくださった人にかんしゃでできる大人になりたいと思います。

飯坂小学5年2組 赤坂 結星

けなければと思います。ボランティアに入ってくれた個人の労力、本山、教区の連携に感謝です。今回は、教区の取り組みとして福島のごもたちを受け入れることが出来ました。教区より29、158円の経費助成がありました。明石たこやきキャンプからも物品の支援いただきました。その他個人からのカンパを計7万円いいただき厚くお礼申し上げます。うち2万円をごももの食べ物基金へ、1万円をふくしま集団疎開裁判の会へ、1万円をバズビー博士支援基金へ寄付しました。

「ごもものたべもの基金」 現在募金総額7,781,004円(9/14現在)

全国の皆様の温かいお志のおかげさまで、当初の目標としていた福島県二本松市での測定所設置予算500万円が集まりました。本当にありがとうございます。

9月下旬の開設に向けて準備してまいります。そして福島県における市民放射能測定所を充実させるために引き続き、「ごもものたべもの基金」にご支援をよろしくお願いいたします。

二本松市で準備中のNPOでは、食品の測定・空間線量の測定・一時疎開支援・除染活動などの放射線防護活動を事業内容としています。また今後、食品のグループ購入のしくみも必要になってきます。

二台目の測定器の購入など測定環境の充実も含めた活動全般に引き続きご支援をお願いしたいと思います。また、福島県内での新たな測定所設立の支援も行っていきたいと思えます。福島のごもたちのために、全国の有志の力を合わせてサポートしていきます。ご協力よろしく願いたします。

ごもものたべもの基金 代表 畠山 浄



ご挨拶 TEAM二本松 理事長 佐々木道範

3月11日の東日本大震災による福島第一原発事故。ここ二本松市は福島第一原発から50km程の距離であり、避難対象区域にはなっておりませんが、放射線量の高い、所謂ホットスポットとなりました。9月27日現在、二本松市から自主避難していった市民は数千人に上っております。

3月14日から一ヶ月半の新潟での避難生活で、故郷がなくなる不安を痛感し、故郷を守る決意をしました。5月初旬から五ヶ月間の除染作業で、

地道にやっつけていけば、放射線量を下げられることを実感しました。そして、未だ屋外活動を出来ない子どもたちの健康と育成の為に、真剣に取り組まなければならぬことを痛感しております。故郷二本松を、将来の二本松を担う子どもたちを守っていく為、ここにNPO法人を設立し、この得体の知れない、先の見えない、放射能との闘いに、私たちは残りの人生の全てを懸けます。

「脱原発」を力説

朝日 2011/10/2
高砂、映画上映と監督講演



脱原発社会を考えるドキュメンタリー映画「ミツバチの羽音と地球の回転」の上映会が1日、高砂市阿弥陀町の市生石研修センターであり、駆けつけた映画監督の鎌仲ひとみさんが福島第一原発事故後の思いを語った写真。

影後に原発事故が発生。鎌仲さんはイランと福島の子どもの状況を説明し、食べ物などを通じた内部被曝の怖さを力説。「自然エネルギーへの転換による持続可能な社会をめざし、自分たちの命と生活を守っていくことが福島の人たちへの支援に通じる」と訴えた。

発計画に反対する祝島の島民の生活と、自然エネルギーの先進地スウェーデンを紹介。劣化ウラン弾の影響とみられる白血病に苦しむイランの子どもの追った「ヒバクシャ―世界の終わりに」でも知られる鎌仲さんの近作だ。

祝島の2年に及んだ撮

ミツバチの羽音と地球の回転上映会より 2011.10.1

無知と今の暮らしへの執着がどんどん自分の都合のいいように生きさせてしまう私たちです。子や孫のためにしなければいけないことはまず知ることではないかと思えます。命に関わる情報が隠されて行っていること。汚染はもう全国に及んでいること。「持続可能な社会をめざし、自分たちの命と生活を守って行く」とが福島の人たちへの支援に通じる」と語られる鎌仲さんの言葉が

ら、何が私たちの命を守るのかを考えました。どれだけお金があっても、お金はたべられない。土地を守らなければ。しかし放射能で汚染されればどうしようもない。自然エネルギーの技術はもうあるというのに、まだ原発を推進しようとする政府。様々にそれぞれの取り組みを伝えあい、できることにエネルギーを注ぐことが、子や孫の世代への誠意だと思えました。

なお、上映会場より「子どものための基金」へ28,29

9円が寄付されました。御来場のみなさんありがとうございました。

鎌仲ひとみさんお話し

よくメディアの人たちに鎌仲は反原発の映画を作っていると言われるんですが、決してそういうことではなく、マスメディアが出さない情報をフェアに出すという作業をやっているつもりです。

今回3.11があつて初めて日本の多くの人たちが、自分たちがいかに原発に無関心であつたか、原発がそんな危険なものだということを知らなかつたか、いろんなことを知り始めていると思います。私がNHKの取材でイラクに行った時、白血病やガンで死んでいく子どもたちに出会ってしまったんですね。そのころイラクの湾岸戦争から2〜3年がたつていましたが、イラクのあちらこちらに通常ではありえないような、腎臓がんや肝臓がんが生まれたての子どもたちにあるというようなことや、白血病もすごく増えていました。それがイラクへの経済制裁によつて薬が入つてこないことで、次々に死んでいく。なぜ子どもたちが死んでいかなくちやいけなれないのかと、それはものすごい不条理で、それを国連がやっているということに衝撃を受けたんです。それで国連に出かけて行つて聞くと、フセインが大量破壊兵器の材料にするからだということですね。それはどんな兵器ですかと聞いても、誰も答えられないんですが、薬は入つてこないで、死に続けて行くこともたちに私は、無力でした。

3.11以降、福島原発から大量の放射能がばらまかれました。六ヶ所村ラプソディーを撮っている時に六ヶ所村では、スピーディーによる避難訓練が行われていました。128億円の費用をかけてつくられたスピーディーというシステムで、事故によつて放出された10ミリシーベルトの放射線物質がこの方向へ行くから、住民はこっちの方向へ逃げなさいとかいうのが分かるんですね。でもそれが今回全くでこなかつた。だから福島県の人はどこへ逃げたらいいか分からなくて、ただただ目に見えない匂いもしない放射能を浴び続けているしかなかつたし、今もいるんですね。それが半年ぶりに出て来ました。地図で言うところ岩手県と青森県の県境から西は浜松まで。日本海側まで到達しているし、南アル

プスの東側まで、ものすごい広範囲に、国土の約50%が汚染されたんですね。そんな中で私たち生きているんです。

イラクに行った時放射線計測機を持って行っただんですが、東京で測ると0.04とか0.05くらい。イラクの首都バグダットは0.08でした。今東京0.14あるんです。バスラという所はバグダットより少し高いのですが、なんでこんなに何百キロも離れて汚染もそんなに高くないのに、子どもたちが病気になるのか、私もその時解りませんでした。「ヒバクシヤ」に出てくる肥田舜太郎さん、医師で27歳の時広島で被爆し、今九十四歳です。爆心地から六キロ離れたえ坂村で直接被爆した三万人の人の治療にあたられたんです。その三万人はほとんど死んでしまったんですけど、その後で肉親を捜しに広島へ入った人なんか、同じように髪が抜け、紫斑も出、高い熱を出し、最後にものすごい血を吐いて死んでいった。それが何故か肥田先生もわからなかった。それを探つて行くうちに後でわかるんですが、放射性物質が身体の中に入って、身体の中から被曝するという内部被曝、今まさに福島原発のひき起こしている被曝の本質なんです。ものすごい量の放射性物質が食べ物や、水や、土壌の中に入り、私たちの体の中に入って来ようとしているんですね。東京は事故後十数日間に飛んできた放射性物質は事故前の百万倍でした。みんな全然マスクしていませんでした。私はしていました。ずつとしているわけにもいきませんから、みんな内部被曝をしています。それを枝野さんはただちに影響はない、と言いました。後から影響が出るということですが、いつから影響が出るかと言えば、イラク、チェルノブイリの場合2、3年後から子どもたちの間に甲状腺がん、白血病が表れ始めました。今はちょうど半年経ちました。その放射線の度合いがテレビや新聞を見ているだけでは分からないと感じています。世界中の放射能汚染地帯の写真を撮っている森住さんという写真家が、事故直後飯館村に入ったら、持っていた放射線探知機が振り切れた、ここは今まで行っただ世界中のどこよりもここは汚染されている

と電話で伝えてくれました。これから何が起きるか恐ろしい、健康被害が確実に起きると思います。

そして事故を引き起こした東京電力や国がその責任をとるのかと言えばどうもとらないのではないかと。今、東京電力の前に、福島の色々な人が何とかしてくれと必死に訴えに来ているのだけど、その姿を海外メディアは伝えるのだけど、NHKは一切伝えない。東京ではデモが頻繁に起きているのだけど、それを丁寧には伝えない、インタビュをしない、伝えても過小評価する、6万人を3万人と言ったりするなど、そういうことから考えると、マスコミはあまり変わっていない。事故前福島原発はとても危ない状況にあったんですね。プルサーマルというウランとプルトニウムを混ぜて燃料に使うのをやっていたし、寿命30年という所40年使ったりしていた。安全管理もずさんだった。その一つ一つをチェックする役割が果たされていなかった。それを一つ一つ検証して行っているのか、と言えばまだまだ足りない、それは東京電力がまだあるからです。これだけ日本の半分もものすごく放射能で汚染した東京電力がまだ生き延びている。私は一度倒産すべきだと思う。JALは倒産しても飛行機は飛んでいます。東京電力が倒産しても電気は供給されます。経営陣はまだいきていますし、責任を取らない。300億円の予算を持つている広報部はまだあって、そのうちの30億円がメディアの接待費となっている。部長課長もいきていて、「お前を接待してやったことを覚えていな」と、ぴちぴちと同じ人がそこにいるのです。しかも政治家も官僚も東京電力を守ろうとしているから、メディアだって広告費をもらわなければならぬから本当に追及していません。あの人たちの責任がまだ追及されていないし、私たちに知らされていません。

福島原発の5⁺圈内に1000体の遺体が3ヶ月放置されていた。その遺体はあまりにも放射能の汚染がきついので遺族が近づくことが出来ない。回収もできないし、火葬もできない。もしくはやく捜索に行ったら生きていた人もいたかもしれないですね。それも原発事故の影響ですよ。そういうことがまた、隠蔽されて行くのではないかと思っています。そこに、いのちというものが関わっているのに。(つづく)